

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2021 年 11 月 20 日)〉

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

II 第 32 回大会 (琉球大学) の大会報告及び収支決算報告

III 次期大会 (第 33 回名古屋大学大会) について

IV 学会業務の ICT 化について

V その他

■ 報告事項

VI 事務局報告

VII その他

〈第 32 回琉球大学 web 大会 (2021 年 6 月 26 日・27 日) の報告〉

〈第 12 回研究集会のお知らせ〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2021 年 11 月 20 日)

定例理事会が 11 月 20 日 (土) 10 時から 12 時 20 分まで、Zoom を用いたウェブ会議形式で開催された。事務局 3 名を含む 27 名 (うち理事 25 名) の参加があった。

審議に先立ち、松下代表理事より、第 32 回大会と「秋のセミナー2021」の開催、ならびに各委員会の活動に対する御礼が述べられた。

■ 審議事項

I 各種委員会の活動について

1. 研究奨励賞審査委員会

小柳研究奨励賞審査委員長より、資料に基づき、研究奨励賞審査の経過報告が行われた。

まず、細則に示された手続きに基づき、研究奨励賞の第 1 段投票の候補者を選出した結果、4 名が該当したこと、および、理事による投票結果により上位 3 名に絞り込んだことが報告された。第 2 段審査に入るにあたり、「上位 3 名を選び、その専門分野に該当する審査委員 3 名程度を含む研究奨励賞審査委員会を 11 月の理事会までに構成する」と関わって、「候補論文や著書の審査を行うにあたり、審査対象者と共同研究経験や指導経験などの関係がない方で、専門分野に通じている理事あるいは理事に準じる方の 3 名にお願いします。なお、理事に準じる方とは、現在理事でなくとも、その経験を有する方とする。」という方針で研究奨励賞審査委員会を構成したい旨の提案があった。審議の結果、提案の通りに進めることとなった。

続いて、「優秀発表賞」ならびに「研究奨励賞」の審査の手続きについての確認、ならびに修正の必要の有無についての審議依頼があった。審議の結果、以下の内容にて進めることが承認された。

(1) 審査投票を行う理事と司会者には、学会プログラムにおいて、誰が優秀発表賞候補者であるかが通知され、審査の依頼書と第 1 段「(記名式) 投票用紙」が届けられる。

(2) 自由研究発表の司会者 2 名は、優秀発表賞候補者がその分科会で発表を行っている場合、3 名を上限として審査する。また理事は、発表要旨、所定の期日までに提出された発表資料を中心に、当日の発表の様子も参考にしながら、3 名まで推薦をすることができる。なお理事が司会者を兼ねている場合は、司会者としての推薦と他の自由研究発表の推薦も含めて 3 名を上限とする。

(3) 学会賞委員会によって組織された優秀発表賞審査委員会は、大会終了時、また終了後一定の期間の間に収集された第 1 段審査表を集め、上記 (2) の結果を集計し、上位から候補者リストを作成し、第 2 段投票用紙を作成する。

(4) 理事および当該大会の司会者は、送付された第 2 段「(記名式) 投票用紙」の候補者リストから 3 名を、順位をつけて選び、理由を添える。

(5) 学会賞委員会によって組織された優秀発表賞審査委員会は、2 段階投票の結果を整理し、優秀賞候補者について、資格や推薦理由の確認、以下の 4 つの観点に基づく審議、当日の発表の様子最終確認を行い、結果を理事会に報告し、承認を得るものとする。

4 つの観点審査は、(a) 研究発表や論述展開の論理性、(b) 研究の方法・技術の適切性、(c) 成果の独創性、(d) その他 (教育実践への寄与、学会活動への貢献度など) とする。

さらに、安藤副委員長より、研究奨励賞の被選考者の対象が「入会后 2 年以上 15 年以下の学会活動歴を持つ会員」となっている点について、7~8 年程度以前の入会者については入会年のみ記録されており、「月日」までは記録されていないため、入会年度を基準として判断することが提案された。審議の結果、承認された。

2. 紀要編集委員会

まず、磯田委員長より、資料に基づき、『カリキュラム研究』第 31 号の編集に関する進捗状況が報告されるとともに、理事各位に対して、査読や各種の原稿作成のスケジュールの提案と協力

依頼が述べられた。審議の結果、提案されたスケジュールに基づいて進めてゆくことが確認された。

続いて、「図書紹介」対象図書の推薦に関して、協力依頼が述べられた。

3. 国際交流委員会

澤田委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、今年度の「海外カリキュラム研究情報」について、Gettysburg College（米国）の宮澤かおる氏に執筆依頼を行い、承諾を得られたことが報告された。

続いて、来年度の大会の課題研究の企画について、委員会内でブレインストーミング的な意見交換を行った結果、「国際バカロレア」「カリキュラムにおける情報化の問題」「実践研究と理論研究の関係——学校レベルに留まらない地域改革・政策改革の諸課題」「『社会に開かれた教育課程』という要因の海外ルーツの人々が多いコミュニティとの関係——グローバルなカリキュラムとは？」「海外ルーツの児童生徒への学習支援について——日本における移民教育問題」が候補として挙げられていることが報告された。今後、委員会内で決定に向けた議論を進めてゆくことが提案され、審議の結果、提案の通りに進めてゆくこととなった。

4. 研究委員会

上地委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、2021年3月に開催された研究集会、ならびに、日本カリキュラム学会第32回琉球大学web大会における課題研究Ⅰおよび課題研究Ⅲの内容が確認されるとともに、2021-2022年度の第1回研究委員会が10月中旬～下旬にメール会議で、第2回研究委員会が11月3日にZoomで実施され、春の研究集会と2022年大会の課題研究のテーマについて検討されたことが報告された。

続いて、2022年の研究集会（テーマ案「カリキュラム研究の観点から協働的な学びを考える」）の報告者やコーディネータ、実施方法についての案が、また、課題研究について『いまなぜカリキュラムにSDGsなのか』・『SDGsをめざすカリキュラムとは？』と「カリキュラムの研究・開発の専門性を育むカリキュラム——大学院と現場の育成論」がテーマ案として挙げられていることが報告された。

その後、2022年の研究集会の実施方法と開催日について審議を行った結果、オンラインで開催すること、および、日程については理事会とは連動させないこととなった。

また、今後、研究集会等をオンラインで開催する場合には、参加者数ならびに所属を資料として共有してもらいたい旨の提案があり、そのかたちで進めることとなった。

5. 広報・若手育成委員会

根津委員長が所用により欠席であったため、石井副委員長より、資料に基づき、報告があった。

まず、2021年7月9日と2021年11月14日にZoomで委員会を開催するとともに、メールにて随時意見や情報を共有していることが報告された。

続いて、次回大会の課題研究について、「カリキュラムの『不易と流行』を語るⅢ——副題未定——」が予定されていること、また、登壇者については検討中であることが報告された。

その後、2021年9月20日にZoomで第1回「若手育成セミナー」が開催されたこと、および、その内容や進め方、参加者からは好意的な感想が出されたことが報告された。あわせて、第2回を2022年2月頃に開催予定であることと、しばらくは交流ベースで開催する（プロジェクト等への発展については、そのメリットとデメリットも含めて要検討事項とする）方針であることが報告された。

さらに、2021年11月14日にZoomで開催された「秋のセミナー2021」に関する報告がなされた。

また、第32回大会の課題研究「カリキュラムの『不易と流行』を語るII」について意見交換が行われた。

II 第32回大会（琉球大学）の大会報告及び収支決算報告

まず、上地第32回大会実行委員会委員長より、大会開催に係る協力への謝辞が述べられた。

続いて、上地第32回大会実行委員会委員長より、資料に基づき、大会の内容ならびに収支決算に関する報告がなされた。審議の結果、その内容について、承認された。

※ 大会報告については、後掲の「第32回琉球大学web大会（2021年6月26日・27日）の報告」を参照。

III 次期大会（第33回名古屋大学大会）について

柴田理事より、資料に基づき、大会開催に向けた進捗状況が報告された。

まず、日程については、2022年6月25日（土）・26日（日）を候補としているがまだ確定していないことが報告された。本件に関して、提案された日程で「日本生活科・総合的学習教育学会」の大会の開催が決まっていることが報告された。加えて、課題研究等の登壇者への打診を行う必要性から、早めに候補日を2つ程度に絞って提案いただきたいという要望、および、7月の2週目あたりまでをめどに、候補日を設定する時期をやや広くとったうえで検討しても良いのではないかという意見が出された。これらの点もふまえて、今後、事務局とも連絡を取り合いながら大会校において検討を進め、できるだけ早く再提案を行うこととなった。

次に、開催方法については対面を前提に準備を進めるつもりでいることと、オンライン開催の可能性も含めた開催方法の決定時期について、理事会の意向を聞きたい旨の提案があった。審議の結果、事務局と大会校で相談をしながら、1月をめどに決定すること、および、必要に応じて臨時理事会を開催して審議を行うこととなった。

続いて、場所については、名古屋大学全学教育棟を候補としていることと、現時点では利用申請が行えないが施設利用は可能な状況であることが報告された。

さらに、実施組織（案）が提示されるとともに、大会実行委員長を松下晴彦会員（名古屋大学教育学部長・教育発達科学研究科長）、事務局長を柴田好章理事が行うという点について、理事会に意向照会があり、了承された。

その後、プログラム、大会参加費、シンポジウムの内容、今後のスケジュール、共催・後援・助成のそれぞれについて、案が示された。スケジュールについて、原稿締切の日程を、提案されたものよりもやや前倒しにするかたちで5月上旬とした方が良いのではないかという意見が出さ

れた。その点もふまえて、今後、大会校において検討を進めることとなった。

あわせて、1日目の午前に開催予定の「課題研究Ⅰ」を研究委員会、「課題研究Ⅱ」を国際交流委員会が担当すること、ならびに、2日目の午後に開催予定の「課題研究Ⅲ」を研究委員会、「課題研究Ⅳ」を広報・若手育成委員会が担当することが確認された。また、各課題研究の内容等の詳細については、担当する各委員会で検討のうえで提案することとなった。課題研究のテーマや登壇者等については、柴田理事から日程候補が提案され次第、最終的な検討や調整を行い、12月末までをめどに各委員会から事務局に提案することとなった。

その後、第34回大会について、田村理事より、大阪教育大学が大会校を引き受けることを前向きに検討していることが報告された。加えて、キャンパスの配置や教室のキャパシティ等の関係で、対面とオンラインのハイブリッドでの開催等も可能性として考えておく必要があることが報告された。会場については、同大学附属高等学校や会場校近隣の会議場等を活用する可能性についても意見交換がなされた。また、より多くの方に参加していただけるように、一部のプログラムだけでもハイブリッドで開催するというを前向きに検討してはどうかという意見が出された。これらの点もふまえて、今後、大阪教育大学と事務局とで情報交換をしながら検討を進めることとなった。

※ 後日、理事会での検討を経て、次期大会（第33回名古屋大学大会）については、2022年7月9日（土）・10日（日）に開催することとなった。また、日程の決定にともなって、1日目（7月9日）の午前に開催予定の「課題研究Ⅰ」を研究委員会、「課題研究Ⅱ」を国際交流委員会が担当すること、ならびに、2日目（7月10日）の午後に開催予定の「課題研究Ⅲ」を研究委員会、「課題研究Ⅳ」を広報・若手育成委員会が担当することが確認された。なお、開催方法については、臨時理事会を開催して審議する予定となっている。

IV 学会業務のICT化について

二宮事務局長より、資料に基づき、学会業務のICT化に関する提案がなされた。

まず、現在、学会のメールアドレスとして使っているniftyのアドレスにランサムウェア等が添付されているメールが多数届いていることから、gmailへの変更を予定していること、ならびに、Googleのアカウントを取得することで、ファイル共有等をすることも簡易になるという副次的なメリットがあることが提案された。

続いて、二宮事務局長より、理事選挙および査読のICT化を進めることの可否についての審議依頼が行われた。

磯田紀要編集委員会委員長より、次回の委員会を12月19日に開催予定であることと、それまでにICT化に関して何らかの動きがあれば、その内容もふまえて委員会で議論したい旨の提案があった。

本件については進捗があり次第、事務局から理事会に情報提供等を行い、審議を進めてゆくことが確認された。

V その他

特になし

■報告事項

VI 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、資料に基づき、「会員現況概要」「寄贈図書一覧」「会計途中報告」に関する報告がなされた。

VII その他

次回の定例理事会について、以下の日程で開催する予定であることが確認された。

日時：2022年3月に開催することとし、具体的な日時については改めて日程調整のうえで決定する。

※ 日程調整の結果、2022年3月6日（日）10時から12時30分で開催することとなった。

開催方法：Zoomを用いたウェブ会議のかたちで開催

第32回琉球大学 web 大会（2021年6月26日・27日）の報告

日本カリキュラム学会第32回大会は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大防止の観点から Zoom を活用したオンライン形式で、2021年6月26日（土）・27日（日）の日程で開催された。前年の2020年に沖縄で開催されるはずだった第31回大会において企画されていた課題研究やシンポジウムは、そのテーマや登壇者がほぼ変更されることなく、1年後の第32回大会で実現できたことは非常に感慨深く、関係者のご協力とご尽力に厚く御礼を申し上げたい。また、オンラインでの実施にもかかわらず、249名の方々に参加申込をおこなっていただき、実際に当日の大会を盛り上げていただいた。ご参加いただいたすべての方々にも感謝申し上げます。

自由研究発表では2日間で13分科会が設けられ、43件の発表が Zoom ミーティングを活用しておこなわれた。オンラインでの自由研究発表の実施には不安もあったが、当日の様子は従来の対面での実施と比べても遜色なく、議論が活発に展開された。

課題研究は今年も4つのテーマで企画・実施された。

課題研究Ⅰは「全国学力・学習状況調査が子どもとカリキュラムに及ぼす影響とその改善を考える―沖縄県の事例を参考に―」をテーマに、山田哲也氏（教育社会学の立場から）、天願直光氏（地方教育行政の立場から）、村瀬公胤氏（沖縄の学校から）からそれぞれ提案がなされた。小学校における調査結果の向上がみられた沖縄を事例として取り上げ、全国学力・学習状況調査が各学校のカリキュラムに及ぼす影響や今後の改善策等について、具体的な事例をもとに議論がなさ

れた。司会は田中統治会員・高橋亜希子会員、コーディネーターは木原俊行会員・西岡加名恵会員が務めた。

課題研究Ⅱは「カリキュラムの「不易と流行」を語るⅡ—学習指導要領に関連したカリキュラム研究の方法—」と題して、水原克敏会員をお迎えしてご自身のこれまでの研究について学習指導要領の教育政策史研究の観点からお話ししていただいた。そして、根津朋実会員と八田幸恵会員から水原会員の『学習指導要領は国民形成の設計書』（東北大学出版会）を踏まえた報告がなされた。司会・コーディネーターは金馬国晴会員と富士原紀絵会員が務めた。

課題研究Ⅲは「教育内容論としてのカリキュラム研究再考—資質・能力論的／方法論的転回後の新章へ—」をテーマのもと、石井英真会員（学問としてのカリキュラム研究の現状とその価値論）、益川弘如会員（認知心理学並びに 21 世紀型スキル論等の観点から）、澤田稔会員（現代社会とカリキュラムのポストモダンの局面）にそれぞれご報告していただき、指定討論者として松下佳代会員に議論に加わっていただいた。司会は的場正美会員と村川雅弘会員、コーディネーターは村川雅弘会員と草原和博会員が務めた。

課題研究Ⅳは「民主主義と国家の現状と課題—市民性教育の在り方を考える—」というテーマについて、斉藤仁一朗会員、寺田佳孝会員、磯田文雄会員、島袋純氏にそれぞれアメリカ、ドイツ、アジア、沖縄という観点から発表していただき、指定討論者の浅沼茂会員と近藤孝弘会員に議論をさらに深めていただいた。司会・コーディネーターは工藤文三会員と倉本哲男会員が務めた。

シンポジウムは「新しい時代を切り拓く平和教育のあり方について」と題しておこなわれた。ひめゆり平和祈念資料館館長の普天間朝佳氏には沖縄戦の経験をその非経験者から非経験者へ語り継ぐという課題への様々な取組について、平和教育の研究者である山口剛史氏には沖縄の学校や大学で展開されている平和教育について、社会科教育の研究者である金鍾成氏には日本とアメリカの小・中学生によるプロジェクトの事例をもとに「対話型」の国際理解から展開する平和教育について、そして教育哲学者の山名淳氏には記憶の教育学という観点から、それぞれ非常に興味深く示唆に富んだご報告をおこなっていただいた。司会を寺田佳孝会員と上地が、コーディネーターを上地が務めた。

最後に、今年度も大会 2 日目の最後に自主企画セッションが開催された。自主企画セッションⅠは「ヨーロッパの大学入試と探究的な学習」（企画者：伊藤実歩子会員）、自主企画セッションⅡは「対話的論証による学びのデザイン—知識とスキルにおける教科固有性と汎用性—」（企画者：松下佳代会員）、自主企画セッションⅢは「大阪市生野南小学校・田島中学校における『「生きる」教育』—困難を乗り越える知識と自己肯定感を保障するために—」（企画者：西岡加名恵）と題して、遅くまで熱心な議論で盛り上がっていた。

（琉球大学：上地完治）

第 12 回研究集会のお知らせ

日本カリキュラム学会 第 12 回 研究集会のお知らせ

代表理事：松下 佳代
研究委員会委員長：上地 完治

テーマ

カリキュラム研究の観点から「協働的な学び」を考える

趣旨

学校教育において、子どもたちが共に学ぶことは、教師が子どもたちに指導を提供することと同様に、あるいは時にそれ以上に大きな意義を持っている。折しも中央教育審議会「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」（2021年1月26日）では、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」が目指されている。

本研究集会では、最近、「協働的な学び」に関連する研究成果を刊行した若手研究者にご報告いただき、参加者とともに議論を深める。米国の理論的・実践的研究の蓄積に学ぶことで、今後のカリキュラム研究と教育実践への示唆を得ることを目指したい。

日時：2022年3月6日（日）13:30-16:15

※13:20頃から入室可。終了後、15分間の交流タイムを予定。

場所：オンライン（Zoom ミーティング）

①福嶋祐貴会員（京都教育大学 連合教職実践研究科 講師）

主著：『米国における協働的な学習の理論的・実践的系譜』東信堂、2021年

②宮野尚会員（日本学術振興会特別研究員（PD））

主著：『ウィネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程』風間書房、2021年

コーディネーター・司会

上地完治（琉球大学）、西岡加名恵（京都大学）

参加費：無料（学会員でない方にもご参加いただけます）

参加申込について

参加希望者は、こちらの URL (<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZURd-ihRTMiG9bPBMCjOOxCGfHIEJb8f3Mp>) から申込を行って下さい。締切：2022年3月5日（土）23時59分
申込者には登録メールアドレス宛に自動的に接続情報が送付されます。届かない場合は、「迷惑メール」のフォルダに入っていないか、ご確認ください。接続情報が記載されたメールを紛失した場合は、再度お申し込みください。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2021年10月28日時点)

■会員総数 723 (一般会員 638、学生会員 78、団体会員 7件)

※連絡先不明者 6名、会員一時資格停止者 27名を含む。

【内訳】(入会者・退会者は2021年06月10日以降の報告)

新規入会者：13名

退会・強制退会者：1名

一時停止資格者：27名

連絡先不明者：6名

2021年度からの新入会者：37名 (一般：20名、学生：16名、団体：1)
2021年4月1日からの新入会者：34名 (一般：18名、学生：15名、団体：1)

■会費納入率 (2021年10月27日時点)

2021年度：完納 553名 未納 143名 計 696名 79.4%

2020年度：完納 629名 未納 30名 計 659名 95.4%

※連絡先不明者 6名含む、会員一時資格停止者 27名除く。

■新規入会者 (2021年6月11日～2021年10月28日) 14名

	入会年月日	氏名	所属機関名	会員種別	推薦者
1	2021/8/16	迫 有香	所属非公開希望	一般会員	岡田了祐
2	2021/7/8	松尾 奈美	島根大学	一般会員	事務局
3	2021/6/17	外池 彩萌	所属非公開希望	学生会員	事務局
4	2021/6/14	杵渕 洋美	新潟医療福祉大学	一般会員	事務局
5	2021/7/14	木村 優	福井大学	一般会員	遠藤貴広
6	2021/6/14	井藤 眞由美	関西学院大学	一般会員	事務局
7	2021/6/24	福岡教育大学附属 小倉中学校	福岡教育大学附属小倉中学校	団体会員	事務局
8	2021/7/2	千田 直	所属非公開希望	一般会員	正田 良
9	2021/7/2	早瀬 博典	所属非公開希望	学生会員	事務局
10	2021/9/3	近藤 智靖	日本体育大学	一般会員	事務局
11	2021/8/31	ガルバドロッパ スウリ	所属非公開希望	学生会員	渡邊雅子
12	2021/9/8	岩田 久瑠実	所属非公開希望	学生会員	事務局
13	2021/9/14	志賀 聡	所属非公開希望	一般会員	事務局
14	2021/9/21	ビヤムバスレン エンフゲレル	所属非公開希望	一般会員	事務局

※入会年月日は、入会金の振り込みがあった日付になります。会員番号は入会申し込みが届いた日になります。上記の順番は会員番号順です。

■退会者（2021年6月11日～2021年10月28日）1名

	退会日	会員名	所属機関名	会員種別
1	2021/9/9	杉山 立	所属非公開希望	学生会員

2. 寄贈図書一覧（2021年6月11日～2021年11月17日到着分）

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
八尾坂修（編集）	アメリカ教育長職の役割と職能開発	風間書房	2021/5/31	2021/6/17
Katsuhiko Yamazumi	Activity Theory and Collaborative Intervention in Education: Expanding Learning in Japanese Schools and Communities	Routledge	2021/2/23	2021/6/21
細尾萌子、柏木智子（編集代表）	小学校教育用語辞典	ミネルヴァ書房	2021/5/1	2021/7/1
松村暢隆（著）	才能教育・2E 教育概論：ギフトの発達多様性を活かす	東信堂	2021/7/10	2021/7/9
日本道德教育学会全集編集委員会（編著）	新道德教育全集（全5巻）	学文社	2021/6/30	2021/7/14
渡邊 雅子（著）	「論理的思考」の社会的構築：フランスの思考表現スタイルと言葉の教育	岩波書店	2021/7/16	2021/7/21
クレイグ・クライデル（編）、西岡加名恵、藤本和久、石井英真、田中耕治（監訳）	カリキュラム研究事典	ミネルヴァ書房	2021/7/30	2021/8/20
産業教育研究連盟（編）	技術・家庭科ものづくり大全：その教育理念と授業実践	合同出版	2021/8/25	2021/8/20
青木栄一、丸山英樹、下司晶、濱中淳子、仁平典宏、石井英真（編）	国家：教育学年報 12	世織書房	2021/8/25	2021/9/22
大橋節子、中原朋生、内田伸子、上田敏丈（監訳・編著）、神代典子（訳）	ニュージーランド乳幼児教育カリキュラム テ・ファーリキ（完全翻訳・解説）：子どもが輝く保育・教育のひみつを探る	建帛社	2021/9/10	2021/10/1
ハロルド・バーラック、フレッド・M・ニューマン、エリザベス・アダムス、ダグ・A・アーチバルド、ティレル・バージェス、ジョン・	真正の評価：テストと教育評価の新しい科学に向けて	春風社	2021/9/24	2021/10/8

レイヴン、トマス・A・ロンバーグ (著)、渡部竜也、南浦涼介、岡田了祐、後藤賢次郎、堀田諭、星瑞希 (訳)				
京免徹雄 (著)	現代キャリア教育システムの日仏比較研究：学校・教師の役割とそれを支えるメカニズム	風間書房	2021/10/31	2021/11/4
南部広孝 (編著)、京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センター (監修)	検証 日本の教育改革：激動の2010年代を振り返る	学事出版	2021/10/31	2021/11/17

3. 令和3年度(2021年度)分会費納入のお願い

今年度分の年会費が未納の会員の方は、納入をお願いいたします。2021年10月27日時点での2021年度会費の納入率は79.4%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、前年度(2020年度)分までの年会費が未納の会員の方におかれましては、未納分の年会費の納入もあわせてお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 5,000円、団体 10,000円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 930 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

※ E-mail につきましては、2022年4月より gmail に移行していく予定です。変更がありましたら、改めてご連絡をさせていただきます。

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>